

「第1回糖尿病医療学研究会 in かごしま」を開催いたしました。

2017（平成29）年4月1日に、遙々奈良と京都から、石井 均先生と皆藤 章先生をコメンテーターとしてお招きして、鹿児島糖尿病医療学研究会と大日本住友製薬（株）/日本イーライリリー（株）との共催で「第1回糖尿病医療学研究会 in かごしま」を開催いたしました。両先生を含めて、医師27名、看護師44名、薬剤師4名、栄養士11名、理学療法士5名、検査技師3名、臨床心理士6名、MSW1名の総勢120名、県外からも多くの参加をいただき、盛会となりました。

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科教授の西尾善彦先生のビデオ出演による Opening remarks をいただいた後、皆藤先生の教育講演「待つこと」、一般講演としての事例報告2題と各々のグループディスカッションとコメンテーターお二人のコメント、石井先生の特別講演「糖尿病医療学～医学と患者と医療者をつなぎ、支える知と実践～」最後にこれまで鹿児島の糖尿病臨床を引っ張って来られた慈愛会今村病院院長兼糖尿病センター長の鎌田哲郎先生による Closing remarks と続きました。ミニ糖尿病医療学学会といったイメージ通りの研究会

第1回糖尿病医療学研究会 in かごしま
・日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位（第2群）1単位が取得できます。
・日本糖尿病協会糖尿病療養指導医取得（更新）のための講習会として認定されています。

謹啓 時下 先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
また、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さてこの度、下記の要領にて「第1回糖尿病医療学研究会 in かごしま」を開催させていただきます運びとなりました。ご多忙中とは存じますが、ご出席賜りますようお願い致します。謹白

日 時：平成29年4月1日（土） 14：00 ～ 18：00
場 所：鹿児島市山下町14-50
かごしま県民交流センター 東棟3階
参加費：医師 500円 コメディカル（臨床心理士、MSWを含む）300円

14：00～14：10 製品情報提供「トルシシティ」 大日本住友製薬（株）

Opening remarks（ビデオ出演）
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学教授
西尾 善彦 先生

【教育講演】14：15～15：05
『待つこと』
京都大学大学院教育学研究科 臨床実践指導学講座教授
皆藤 章 先生

【一般講演】（講演後に質疑応答・グループディスカッションの時間を含みます）
コメンテーター：皆藤 章 先生 石井 均 先生

症例報告1：15：10～16：00
「周期性嘔吐症を合併した1型糖尿病患者との関わり」
鹿児島医療センター看護師 糖尿病看護認定看護師
尾辻 真由美 先生

（休憩）10分
症例報告2：16：10～17：00
「合併症が進行した2型糖尿病患者の語り」
鹿児島大学病院外来副看護師長 糖尿病看護認定看護師
井手迫 和美 先生

【特別講演】17：05～17：55
『糖尿病医療学～医学と患者と医療者をつなぎ、支える知と実践～』
奈良県立医科大学 糖尿病学講座教授
石井 均 先生

Closing remarks
慈愛会今村病院院長兼糖尿病センター長 鎌田 哲郎 先生
共催：鹿児島糖尿病医療学研究会/大日本住友製薬（株）/日本イーライリリー（株）



となり、頭から湯気が出るほど考え、疲れはするのですが、何故か清々しく、あっという間の4時間が過ぎ去りました。正に“カイロスの時”でした。参加者も晴々として表情で、口々に「感激した・・・」「凄かった・・・」「多くの学びがあった！」「来年も是非参加したい！」「この領域が大切だ」という事が身に染みて理解できた・・・と語っておられました。一方、演者の糖尿病看護認定看護師2名の方々へは、グループ毎にディスカッションの内容をメモ紙にまとめていただき、最後にお届けしましたところ、「多くの学びと気づきのお言葉を



をいただきました。本当に感謝いたしております。また勇気もたくさんいただくことができました。」「患者さんのつらさや悲しみに触れられるよう努めていきたいと思っております」

と、こちらでも今回の発表が意味ある体験となったとのことでした。石井先生と皆藤先生のご講演は、静かに、しかしながら「ドカン！」と参加者の心にど真ん中直球ストレートを投げ込まれ、迫力すら感じるものでした。このようなお二人のご講演を鹿児島で聴くことが出来た我々にとって

大きな喜びでした。研究会後の懇親会でも、お二人をお囲みして、総勢 30 名で焼酎「萬膳」を味わいながら、楽しく、一方で感慨深いひと時を過ごすことが出来ました。

今回医療学研究会を開催して重要と感じたことは、①医療学の重要性を理解し、関心を持ち、共に悩み考えていただける医師の存在（コメディカルの方々は、既に医療学の土壌を持って実践しておられますが、医師はまだまだです）、②講座の教授の理解と支援（西尾教授には感謝です）、③事例検討での事例の迫力、そして④事例を受けてのコメンテーターのコメントでした。特に③と④によって参加者個々にムーブを起こすからこそ、医療学の重要性の理解が全国に広がり、脈動し始めてきたのだと改めて実感致しました。

開催 2 日前から、「鹿児島でこけると、他県開催の士気にも関わる」と変な責任感と不安から不眠と不整脈に見舞われ、第 1 回の全国の医療学研究会の際に、皆藤先生が厳しい表情をされていたこと、石井先生が動物園の熊さんのように壇上をうろうろされていたことを思い出し、比較にはなりません、その時の不安とキツさを少なからず共感出来たように思います。終わったら、ケロッと治ってしまい、人の心理とその影響とは凄いものだなあと今更ながら実感致しました。今後、他県の皆様が、次々と医療学研究会を立ち上げられることを、心から望み、祈り、信じております。

最後に、改めまして、今回の「第 1 回糖尿病医療学研究会 in かがしま」に際しましての、石井先生と皆藤先生のご尽力に深く感謝申し上げます。

鹿児島糖尿病医療学研究会代表世話人

（独）国立病院機構鹿児島医療センター糖尿病・内分泌内科部長 郡山 暢之